

# 看護師の夜勤負担軽減に向けた取り組み



町立真室川病院  
看護師長 今田ルミ子

# 施設概要



- 診療科…3科（内科、整形外科、耳鼻科週2回）
- 病床数…55床（1人室11室、4人室11室）
- 内科31床 整形24床 混合病棟
- 看護配置…地域一般入院基本料（13対1）
- 病床稼働率…78%（R4年7月～9月）
- 平均在院日数…23日（R4年7月～9月）
- 医療設備…CT、MRI（1.5T）

訪問看護ステーション新庄サテライトまむろ川 平成29年8月～施設内開所

※関連診療所 釜淵診療所・及位診療所（オンライン診療実施中）

# 職員体制

職種	人数	職種	人数	職種	人数
常勤医師	4名	薬剤師	2名	管理栄養士	1名
非常勤医師	20名	放射線技師	3名	病棟看護補助者	5名
看護師	31名	臨床検査技師	2名	クラーク・助手	5名
准看護師	3名	理学療法士	3名	事務局	9名



## 看護部勤務体制

(R5年度4月現在)

外来 日勤(8:30~17:15) 早番(7:00~15:45) 当直(17:00~翌日8:45)

病棟 日勤(8:30~17:15) 早番(7:00~15:45)

準夜(16:30~1:15) 深夜(0:30~ 9:15) 3交替(3人)

## 課題取り組みの背景



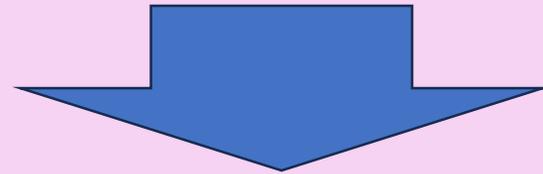
- WLBに取り組み、今年で8年目となる。  
取り組み当初からの課題は、夕方の即日入院であった。
- 即日入院が90%超えであり、うち夜間入院は25.2%である。
- 当院は高齢者の入院がほとんどであり、うち認知症高齢者の新規入院は、49.1%である。
- 認知症患者の、夜間せん妄患者の対応に苦難している。

**休憩がとれない !!**



# これまでの夜勤業務

- 夜勤は3名体制で、部屋割で担当している。  
(内科係が2名、整形係が1名)
- 部屋並び順に患者の人数割をしていた。
- ナースコール対応や、せん妄患者の対応は、各部屋の担当看護師が行っていた。



重症患者の部屋、コールの多い部屋、認知症せん妄患者がいる部屋を担当すると、看護師各々の業務量に偏りが生じていた。



# 取り組み

- ・夜勤替帯で1人1時間は、コール対応しなくてよい時間を確保した



## 【準夜】

① 20:30~21:30

② 21:00~22:00

③ 22:00~23:00

## 【深夜】

① 2:30~3:30

② 3:00~4:00

③ 4:00~5:00

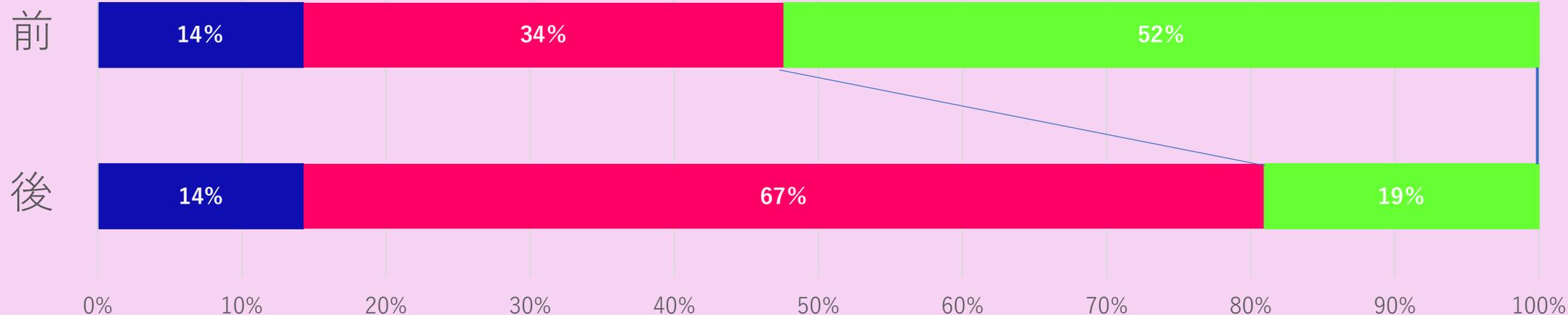
休憩時間が重なる部分は、コールの少ない時間帯に設定している。勤務前にチーム内で打ち合わせをして、各々どの時間帯を休憩時間とするか決めている。

# 取り組み前後のアンケート調査



夜勤をしている病棟看護師21名を対象にアンケート調査を行い、100%の回収率を得た。

## 休憩1時間は取れているか



アンケート期間：R5年8月

■ とれている ■ まあまあとれている ■ とれていない

取り組み前は、52%の看護師が休憩が取れていないと回答していた。後は、19%に減少した。

# 取り組みの効果（看護師の声）



- 1時間は休もうという意識改革があった
- リーダーが声をかけてくれてチームワーク良くなった
- コールを気にせず、自分の休憩時間は休めるという点で「休めた」と実感できた
- コール対応はいつでも自分が行かなければと思っていたが、気兼ねしないで任せてよいと思えるようになった
- 忙しい勤務の時でも、自分の休憩時間内はコール対応をお願いしてもいいんだという精神的な負担が減った
- 夜勤の負担が、分散されたと実感できた
- 自分の休憩時間がチーム内で共有されているので気兼ねなく休める

# 今後の課題と展望



- 取り組み後は、休憩時間が取れて、夜勤の負担が減ったという成果を期待していたが、「とれていない」と回答している看護師が19%いた。「とれていない」要因を検証していく
- 忙しい夜勤業務の中、リーダーの声掛けや采配が必要。チームワークよく業務を行うために重要課題と考える
- 今回、夜勤負担軽減において、休憩時間の確保から着手した。今後、看護師の平均年齢も上がっていく中で、各自の健康状態を維持しながら夜勤が継続できる働き方を日々模索していきたいと考える